世界萬寶

立身大福帳

三

函 93
冊 7

特別
へ13
4149
3

おもてを無賊天女の利益と傳授し
給ひしかれども文殊菩薩の教人勇をもち
うりとなる大宿因あり貧窮の苦難はし
て智徳を貪るべし少つゝ蓄へ積
こゝろ成ばとゞまるべし分に貪ふ
ゆゑ大なる清貧なり智にさとる学問
なし能もし無智の人伝聞の人の右の言葉
非ん智徳と信ずべきなれば天女を伝
ぞうに貪欲にまとうて人に宝乃
山まへまとひまとうしと陽とをゞけ
ちゝ魔縁と名づけ奇ん
く伝聞しまり智徳とさびかと
立身の名を名乗人

56-4158

指一ケ所で立身久三

巡り合せ二十軒のうち最早
多にうつれハ大石の海うなゐ女

中指乃宿お伺ひ

江戸稽古稽古かろくく金玉
親汝の恵舞多おのうつじな

物数奇に新の恵舞

在男ハ廣し穀断て天狗ゞ多祈
氏系譜を金ぢく江入中ばゝ多

長湯へ元福新の親

九郎乃大ゝ長ゝ長湯の大ゞ湯
長者ハ二代ハ家ハ八代目おうて

立身大福帳巻之三

○指一ケ所で立身久三

四郎兵衛よ入てまさ川乃治郎一人お世ーて氏種性を
多宿住ーゞ元禄八年九月十日うきを世ゆ例のお
有ゆ大坂すゝゞ〜〜久三ありうりうり家様
よ法〜ぐ〜と世の三岸を勧ぶきハ我はゝ人あよ
ゝ法ゝ十年ハ光陰ハ奉剃下流乃水ハ
ーーゆるよ二十軒乃電を法ゞ門て法張新合六
百指ゆ内ゆ有への付商信人ゝ多節ゆ久紀ゆ
乃まゝうすゞさせんだくち信代を指ゆけつさ

[illegible]よりたで色形くまこ稲ばかりくなる悪性の云分別色
て小云云のたのあるものなりを小滅て身のうおせる他
百七十五年云云よりうせ後ことをもきてさん用今十年
うせので三百五十五年のえを迷をそれをて毒をを
知るまい〳〵呉服高ハたとうねまなりこうくむく
の指と扇かくとかうくへて去れうれくをとる
うくへえをもいくねなりこれくを久三年云まうく
やうはさらけばこそ二人前の弱分をとれまい
今十年ばこすきハ齢四十よるふ男ハ疫をるれれ
ばくさゆうあり気力れこうくて万れ頼ひを知

然〳〵親〳〵なきをてうせのでおの後の誘う一年よ
ナもなれ〳〵なり〳〵時あるば陽気の知るれ知り
てんや物の学殖ゆて富貴切のまあひとうせバの
ずいでこあうおて男此疫病わたらひ芸問山殺来
を伝ばはさこ代こ業代この海よりあて運あくば
大よこうやうるをるまるさ物ゆをあたふけハ
打初て又のこの久三ひけくまて此疫病軍こ完
強を格かえ孤〳〵てあうけうさ強ようりねなど
うこの名なきばあ孤〳〵て亜よねう学の久ひう
こ呼きあをくう毎ひハ疫気の下亜なる二方を

ゆえ〳〵て、製米所の責うやはこ三重でしきゐて、
月九分強を毎日三重づゝなり〳〵れば、
て面倉のみをねきゞ、銭八百文分、
なれば、お備やへをはづうりかれた百文が世帯
乃領知いりの切賣まで、三百文ばかりなるよふ
自由の手をなし、銭二百文ばかりこさ、
えを強を除り百文を長屋へたのんで月
一五ずつ、ゆるりつゝみ、七月の末にて一年
中の家賃を拂ひ、残りの分をもつて、
おくりまハ日を数て、三百八十五年ハ、

経ゆ所なるゆゑ、数凡二十年ばかりゆゑ、
所今稲中村稲田雲屋の氏子ハ外ハなし、
ゞ屋中て、ゑ〳〵れる生まつさき重ゆづ、
所の乳母、ゑ氏ハいよ〳〵下女、三まてよりゆ
ゞれて、今鶴庵をやきまするこてはれ白アに
又、ゑ〳〵ゆ新屋る明屋ハ、人をなし、されハ双六
のさいハ誰きゝ知なれゞを上ゆゞるをたゝへハ六
先ゞはやく主ある我人牛角なる分別をみゞい
てたゞひよ者ちを、おゝ世の中なれゞこそ
やすゆハるさ人ゆゝくきれゞ所世ハのこゝ

が志ゑをよう すきハ大ゑをはやくあるけ久
三ゞ元つきハ一せさ蓋て百七十五文高雲ハねうぼ
こう務て素ハ程千貫文有ゑよつまてくち
をうるりうあり をけたる丈人俗よ毛をはゝ文の
こうひゞ白ふなきハ塩切をいゝ肩ゑきけ込を煮
て汁面の搗ハ仕ものゝうだちこうや腸の内うけ能
元ゝこうゝ和風倍よなり 立花三の湯の魚ふ信
でを十人前の弓を金て自然ふ作法あり こそ
人よゝゞあゝきを せゞたゝ大谷のま稲を せう
こをこうく 殺源氏なゝたのりけ世や

○中そるをの石なの庭なゝ
軒のそゝゞるをの石を門ゝを水元鼓金よあゞ
つゝべの縄乃井ゞゝを切ゝをなを又 稲よなゝ稲ゞ
所事ふ油沙なく功をつゝば真面のあゝゝなゝい
けゞゝを一年よ四方賣ゑゞけあ入きをたゝゝ丈
稲なれ和きて先稲より主代の家屋補をられば
女所乃七濤やハ二又づけまんぢうを書て伽ゝ和も
家屋一紀を賞番る拙ゞて紀の人ゝ風倍を
乃ゝるよゝ人ゝあつてを伽庵ハ人をなゝ一せいのゝゝ
こひゝひゝ肥さゝやせゝさゝの書ひのゝをて九分十

分なる人並の智恵よりかせぐさらやしてないを
と笑と弟子たちきてるるをと笑とハあへひこ
事へひこ経書ありて事なきバ惟鼻の先のちゐ
ばるを示ものして稼を業ひるひ事をちゐ
く貪婪ハ道をの高ねるうこてやんくろ
有を恨るを知らうかさきバねれ久れ一前
のあどを津白の銭を勝ち付玄蔵のそ事
勤たる旦那へひけさう義何ぐ年なそーて
をさして智ね使合人先ち事ハ体ま
てふ自由ぬる者ぢいうやうく礼高をいさ

まるうこうせバ奥へ去ひうをうあて久三うひさ
ちいひるさを月張てうあ月てうゆよ月人なん
ど者ぢ入ハさやて一人でハまい鉢のうをいひ合
てつまそてをいうあるさでであ梅さうなるあ月ひ時
分で妻ぐ妻ぐ言ひて去ひつないう世事うたるい
やゝいこうやせあ月さ何をして色ち月るまあざる
事ハないを考ひるよ陸分情をあーや今ハ月ろ
ゆを人ぐまりてぬうハ大分ひあるう人並ちさくうあう
梅なるゝバ別和たけよるの者ちあハ妻まいさひと
いさのあを事を梅るるさ其ハ物ぐそあで

あ[illegible]て[illegible]ていあやこいてかくうす部屋へつき
行大事切のこの千石をこーをみさせてお米をを
をさる枝ぬうせ[illegible]ぬうとれよさせをれバなんぼうふ
ぬうしてを九三ざうだいぐわ七升ゑもよ重百二字
三文拂へハ乳母ハ其後を信九て奉二ゆへなげあ
ー腰えをよんで関係の入地よこわさたうやう
乃上毎りれないまうなひを大切の金ゑよみて其
家の主人ハうてを九のつるねるすぞうー枕下女
よいひ付て二前まで幸ひへいあやるよ三つけ
知らをれ母せよこいバト女ハ其主よのせて車九ぬ

しる人の穂を変しーきくいぬーを久三屋ぬるて進
よけきこうを様振次第よ変ーまするこいバなん
ほ今ゆてを行のたれる持の図てふなーメ合の
ぬ九こーを田ゆまく腹よたんゆふさせ有へゆりて其
変よ小米を毒ーてみねうを中変へうれハ重百三
十文ぐ拍ぐ七百文ぐ拍ゆ立義引て宮百六十のまう
けせ九つき祭的みく絶を其智毒をうまー
秘をれさて利ハ毒を世ねハこを物の明智みて
其ゆ月の法なりさきバ久三ゆ先みてくふうを変れ
はへあるうニチ新門を毒ーだんあハ家ぬこるく

福

いらめて十月めくるまでバ月よ二百つゝ丑の年ハ
ゆゑのねつ大分に成る事ハ滝たるほう
まで色高貴のさん用よ入きて伽羅賞ぶ一てを水
を飾るゝ事ハ一日人ぜ大事ハてハねつ所
まで上形ゑやゆれ様ゑの吟味なさるゝ事ハ
なし一当下くまつ世なれバ伽羅真ゑのたゝよ
ある白蘭ゞ丈配一てをうの物を我物の色る
やうにハ丑仏久たゞ笑ふねつ丑ハ一百よ三百日
百づゝ利を引て仮蒔ハ米ハて仮蒔バ一粒を
ふ貴月よ十月のゆうけハ九のびよりゆ者で入

九月十一月御祝儀の源月のり盛立年ゝ七月まで元
日数三百日よりさい張三貴ゑハたびくよ祝一ゑ
形ゝ亀ひ申て三れ内よハねつ一儀たゝ稲バ十月
の底れゝよ繁盛をゝ又ゑ事ゝ者ゝハ猶ゝ物ゝ
こゝ祝安福ゞい者老ゑねつハ巻ゝ子ゝ一せきを
ゆゞり安ゝ申ゝ高ゝみ久たゝを生て大ゝよれゞゝ
いゝのなゝね米ゝ又言白ゝ米ゝ家よきゝりを
三ゝハ神様の延ゝるハ神を祝ゝとれゝひ一よ所中
よさゝして角者老ゑさゝ祝ゝ海ゝ米ゝ中ゝ
さよ様ハ仏高を未永くハらげ申一と田ひ支

ふりそめの事ゝ気をあらんを付ーが或人の噂よ
当年ハ江戸ゆてりり沼大分つゝへ去年ハ変より
ちつとたる沼ハいゐゞ一桁をさだけねよりーはを年
こいやくゝへ今までちりこんとる蔦和中く一夜年中
よハ遠ゞ戸まさ世この料蔦偽くちろ紀稼あー
の稼ハ悪く稼席ートこのさこ下北蔦蔦を
接ふーは戸の蔦ハちを亜なり来永く張を称
させ沼や中ハ三川ハ江ひ為紀こいふ言ハ知れた
ト他つくても先の寒ゞ物ーをあまいーをと
のこけを沼やゞ今年一変よはさまさ気を

さきるる茶ハわつこちるとませうこをを変
て情ハ通よりてうとー久三ちやくこねうゝ気
を変て茶をつゞせハこう大分ねりハあまこ茶代
呼ゞ変なくバねうバ大分こるべーこうーなゞくゝ同よ
ハんね事ハたのまきに姫の茶をうんこ蔦て三田ひ傳
ハへゆさ池田伊冊の稼毎をうんきハあんのぬくに
戸席ゝこて知紀あり数千さうれこ高三事毎
ト沼稼ゞをを稼こる根こう千変ト一変の茶ひ
入きは時を先ゝあべうゞど亜ト我張を紀亜さ
沼ち彩へゆさぬうの蔦亜仕ひる三夷ゝの張

を入給ひて賞入りぬを賞ぶかれたなのさきを賞ぶ一ぬを張えをたのこと賞より一田ひ入
をふ給ひ給ふ一きまこび毒やゆを拾ひ一さて
くいやこいりきぬ京ひのき其家なるべ張ハ何程
ゆこを仕方あり濃くべ一力一重賞こゆなよ
一大坂天満ハ山ゆよ夜間一平飛矢尾久宮ち
尺稼祈俊清水清地方藤そろさ地田伊毋えん
田舎樽渡休尺京大津番家西乃京までのころ
に賞あげ成る部合九千石張る一ゆ五千七貫
五賞こむ円ろ浪くよりなる一三千五百の賞

ゆ二月ゆ五ゆ八千五百までゆ五一き雑用
張の歩まで引く藤二千五貫五まうけて五百ひ
乃地の三貫五ゆ八人て三千八貫五十年百七千五
毎の張分ゆ乃んもバ二千年北飛行をたつさ
十五ヶ月乃田ゆ毎張たく智恵ゆをあ浪分別
ゆを拾ゆ浪ゆ色乃周藤ゆてそれまての貪
業の飛ゆ搏じたるゆをあ浪唯土ぜんと手指
乃志学ゆう生まゆ付さが後の祈賞恵ゆ乱の
付てれのひ入れのさいさハ三貫毎のたゆてさき
あひに清んが恵ろてきばさいの員を生てくる

新才の梅こひさく焼ふくいよ麩ふ付たる火のさく
みくいこさく起かつる仕合ゆハりるひ事をし
てをようゆり前まこりりる付言ゆよい事
をしてを要ふめる千人で引てをこけぬ太ぎる又
こけかつるきバ千人でこあてをこ母ねめく人
の分物をこ母ひにこりるまんこい志学の座ま
でひつくものなりこく人ハようゆ母ぐ海ぐ天
道みく海ろくハ天罰なり利ぐで人ようゆ母ぐ
海ぐをのゆてハなし一切房で人ふ要ろく却ゆを
あこ我かしこ迄をやて人こ和をあこそこ

我ち人をてまして人ふ陽ひさく人すきバふくまるく
こいあるひハなし一けつく人ハ要まてハ男ひ人ろ
利ハを迄をしるゆ人なり前ふあるゆの要人ハ提婆で
を守金でを切房なる人ハ往をなし一男ひ人
ぢやこいりきてゆくまれるよりあほうしやこ
いりまてゆこをとうゆ母ぐうぐ海なるぐ一男ひ
こ稱れての使ハなきれぐあくはきてハ撫れく
一切の種ぐここう又んやここを我を立る人ハし
こうぐ才の拾ゆこいを我のこゆ人ゆをさゆくい
を我ゆ人なりこけこりる弟ゆて志学

を惜き物也積月人なりこうく我身を早くして
人はそむうね久三ぐちゑ浄土浄の國ゑえ生てそれ
まで此あほうをはげ晴まーなる事を明ら
うゆ形る通理あく相當と御れね天道や

○相撲よ形乃こひ奪

異端虚二空寂滅乃教へそまきくよ立く士農
工商乃外醫者若山伏陰陽師祈宜巫祝こと
極女教舞妓さら系るかさ永以月用かごうき
後よるもりしハ草此稲こていろくさ毎ぐ此世
後ろと言ふを年よりは此一高愛金張

乃ゝ人をして敦所の天狗の所為にて凡そ天狗
ハ者ハ存をはしてさくるを世ハ云狗ハ畜
生よりこそ者ハ人つむさ大勝る中を梅ところ
て人ハ和ハすあさいでも狗ハ名ばさい物ハ七人ハを
ゆるうこそて又剣まーのほ中をしてまたいろ
ハんてをすわなる身の時ハなーいうさ毎雖波乃
新乃鬱さ事れたこういろ先の撫さを祠ぎ乃
絵るよねうれ又三月毎のうーみをいて安倍の一
剣をれーあう又云るれ乃を顧さたたびよ
毎物殺せーゆへ付ゑ久こう賞へ重れどうう

けとをの子びようこびよまて流ーけるハ今ゑ七
湯中て某物人間高要其事ー紙唐和の賞を
千夷毎の身神大聖やたれ国つ夜こて脊国なる
大高人独姫ごよ七年以前十八の年京より数
泥千毎物て聟君出乃乃高ひ中よ夫毎の弓る互
まむつまーくひよくれ鍛つ流く東乃の海ま
さうねゆへ二人の新子ハ物婚なさきかりやハ若
代ハ夫物へ出度ーつ弟ー下度ーれへハ内人さよ
なさきたれ乃毎ハ乃国つ乃て高要を
さうんよ姫くハ乃うんーじやう夜ーー中よ姫よ世

八王寺なりわれーさ命うれの舞うの去年三
月四月よ門そんまてはる記去後五郎ごハ今年廿四
さハ其家ろうろうさうさうかゆをたべはまれ物
びんのーさうよりて新屋ハのこう隊へ
八郎を拾さ拾ごの親さをやんゑ縁の拾
後ろうにこいろく後合ーたあへごをいろ
半後家ごの仏神ーみこ二後のうを拾見後よ
あべ物行ろふ鼻女ろ通をちうと家く亡
まろぼごいをこふ命さーー後こいひ、ろひと云
いゆさ家のゆうなれべこ人の親ごいいゆよ家

一家一門をなげきさ毎く数仏あり来れ共繁
をそ〳〵物の鼻を拾ごあこれくまあ者せひなく
親屋二家れりやへ立後ろとみそや繁乃世後
を拾後さ御ろよ仏家の拾ごゑれのろくれやこうよ
お月へぎりくいろうくいろうさ親屋ゑれを一ろうなろ
ば立親のたやいせへ拾親ゆへハこ方ゆて拾繁ゆ
ぐ〳〵あやろみこ人者去ろうはのろう家よ親く
拾遅毎者化ゆて八わば毎七後や後一あなれば
毎る者化ろと腫脳のへばーうけて拾月屋色
ろやはゑ毎をすさこれおぐく極へをるは下

つゝみ一ぱいなるさゝをみ一ぱい飲過ぎたるのち京
にて宮巡るとゆんさまよこうぐう祝尚こうや流
浪者の勢力を振張して かくのやくせ佛事に
死骸をもつて惜おしみ一やう父母行ん重注を用て
人ハ男女ようよる縁をおそれ一て出家形のわん
を送る事事一ぜんの先祖の位牌を沢山一新の作をかゝれ
奉乃羅やうきゆへ物語乃をもつてを備れ公
よあ作そうの遊ぶをなるわの一ぜん
なるるやう形る新食まて法文を引形を集

形相明らうよ法名なきー世人隆家この公
いやうやうぎさて今まで女ごろの一部よ
愚癡の闇より逆ひ佛乃行へ乃法れ形りを
きるぎりー事れ悔ーさよ公うハたそいうう
の事ハそを新逆の作ハのきーとれさまよ
極人ハ乃ん法よ夫婦ハ乃悔びて形ハ法つ
されさわぬ用より序時をハ事うあ形の人をを
逆人ゆえ乃妻骨をゆづり家の一ぜきハ前
の鎧有ごとさんなれば新くハ形ハ公ようの乃形
ふと部ようよう人うう今家を京大阪の内

みてはるかに其人はしめ給ふ人百一きれば仏法の表
乃手をみを作り一列も傷やなれば行儀悪しく先より
いなけきごとをいとて千貫目の借つぎなれば
ろうて土産なれ人をめぐらしせて五百匁拾銭
する人あるべ伊の方やうふこ銀く中ろへ仏おされ
方ぐ聞立ひごを一門親族廣さ人はたまの事
なのきバ拾さやうを拾てを拾ちべ親兄弟なき
人は屋わうを土産ふ祝其ごと色めを手ゆて拾ぐ
分ろうねは内よ仏方市地ゆて数拾を和拾ちゆへ
ちてうを美者のなるねやうふ先祖の結元たう拾み

を拾よ月ん世こ雲ち家ふの事すこしろのるを事なれ
べ京慢の者拾糸別寿ろを代を屋へなびくちう
は拾のあれ内よくを知ろ人くは内ふ五百匁を千匁
拾てれけてハ拾ろ祖ろ事なれを明後日拾日拾の
若者若ろを稼ぎ行儀ゆて す先ろまバ毎方うろ
一刻ら家の口銭百匁乃生捕ふの先ぢうゆて拾家
きう和ーて屋ろ事なれば元ろづさねやうふこなりひ
地拾なく方ぐくを慰めぐうすいぶん世を立ゆごを
いまぐ拾ぐたろひをを なーさひろの事屋者地
よ親兄弟ろて をれくいづくを藤の拾男ふくを

まこしのない物なきバ品のりうけの銀を指
糸にて儀ゑ百ゑ中て千貫ゑの糸を指元治
へ銀を其銀を指てゆけごを先れ中てきひいせだ
新乃まく銀へ打こゑみ、重て万一ゑ銀なれバ重てよ
其銀中て虎にて門の高賣を銀ゑこを銀
指めゑハなり一貫なくバ口銀を指て表あく
のゑ若ゑ銀なくバ元まり一我三年冥の年より
ハ金ゑ元付今年下年まで九十年ゑ乃ゑ仲
人ゑと称合七百冥中銀なきごを銀ゑを銀も
ひゑたゑよけつゑなる仲人を付ゑ年ハ一ゑ

色なり一百貫目書付たる人を高よ高張
を引張てあけハ急ぐよ二千貫目九郎殿ハ
なるべなる面中きこえ入ぬ法度のりうけ三千貫目
金ゆゑて仕ぬ世のないみの高をせうより始めあ
とくゑて張を現張千貫目の銭神を信九郎
なきバ高張のうち面ってえ而ちあんを稼て行
くう面人高面の本なきごをよごさゆてを張き
ちゝぬくいなり始めやうにハみのにより学ゝ面へ
初又こゑの氏系場ハ源平巻稽入る毛沒者
大坂中れよハ所人ハ得よ及我ホ中るで九拾て

たゝ大名の右ゝ命よなる殺ゝを張沒者ゆてりに
ゆの年一又暗殺ゝ面ゝ出ゝを学ゝてりゆるゝれ
までよ高あんを攻ーたゝ面へと本ホ保入なるやう
よいひ拾て海ゝきれゞさーをの人ゝ三代嘘よ知を
うごうーに入乃銭ハ産ゝを潜ゝホ伝いゝハ常れ
殺ひなきごをゝる張世界ハひろきれゞをーさ
やれ年のきまゝ死拾ゆをあゝゞさいるひきく
年市季なゝたる面んご所のゝうまやゝあハ
色俗乃学ゝあごいやゆて年よ二変づくゝ代元
ゝ下ゝ海きバさゞゆてやうにの生れ年ハゝを

まいと祈るー我ものうきまやへゆき
わたりうりはこころもゝ腐よりと虎ゝたるゝ代銭よ
りの大ぜいやれ弟と金あなぐゝ易きこバはゝ代
銭ゝきろハ初我商のむらいて問不振子よりく初
きろと高美ハ銭ゝ問ま其外ゝ猥虐ハ銭
さろと能銭こゝふのゆてハあゝ福ごを銭ハ九
三千貫ゝ銭の仕合ハ凡ハ掛ゝよ千貫ゝ銭ハ家
銭ゝ家屋ーさ代外元こみたゝ虐物修物物銭
こゝ敷をまゝ代ごを仕合ハ去ま奏ゝむ
すこを敷世其後家一せきよ独振さんぐゝ

者家ゝろとゝ代ゝ実ゝ仕ゝ置ゝ代ゝ我ゝ外ゝ
までハゝでゝくゝゝろとゝたゝるゝこを世ゝ銭ゝ
を世の中ハわりひ事たゝばゝ元おひゝうゝ
海世バさてハ口入のいひーよゆをたゝゝたとあん
ごーて者人海ゝ問ゝ家を銭人の天物ゝ来る
を者ゝ海ゝ者ゝさんを世ゝて其日をゝゝね

○七福人福神ゝ祝ひ

毎ごに賢ごハ廷人ゝ祝ゝるゝなきごを其ゝを代て
そゝを海ゝさきハ者ゝ者ゝ世ゝまゝごゝきこいゆゝたとハこる
人の要むゝるまごゝを其ゝを代ゝて祝ゝきハさ

らずとうやされバ世のゝ人ゝ為貴を物んでふうさ
ふ所をるべき道をゝ[illegible]貪欲を慎めて[illegible]ん
をさるべ[illegible]乃張[illegible]勤[illegible]をれて也者さゝ二代を
をれバ今貧なる者ハ[illegible]ますく[illegible]ん[illegible]ゝ[illegible]
ゆゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ三張八貫ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
乃ゝの為ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いひ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
あひをさゝ[illegible]ゝ三張[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
海ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

同のうけ指をしよう耐でよも痛へゆきて大坂よりう
勢藩の三指要身の安泰を宣張る要る指系
すきバも者ハ毎ふあるね世のなりいきうこと後話
の外様働よりく惜乳働こつあ新を久三ふ
度一親分実相ハえのかんさるへ乱陽分家業ふ
情動一高人ら下やうれてれ指よくげみ行くと
作度さきーくべえよりかせざふねうれ久三な
ふハ法山なり下地ふると高要の仕事せいよう
高の道ハ恵夷商及代内ーやうふけひ勝ひの副
道つとハたくね色及び行うれ副学要夷ふ人の

入こみ九列の弥なれバ田会こハいるれば人の心儀を
上げさふ者る事ハ一吉市ゆて汗蒸を人ふ勝
き分弥だんくふほうて今ハ屋一毒乃事分
張さ物り御よ行人久三の時御一るーハ信を
月人ぐ毒ん毒新事を月新るひ平根おひ乃解元
ど系含ーてを弥ほを月ん毒ぐ乃ず世
の徐よ下勝ハなるとうく有勝ハなると罪ー
こい人ぐを強決ふて俗すでをなるねといふ
事ハ外ー後よ天るるる廃人ーいるる道一所
ーを分をれさむるを人をれそなんと孔列の室

ひしハむべなりしにや世俗大がや今もなほつたへバ大
坂より西二十三ケ国に隠れもなき人となりし今
又大福の名ハ東へ連ねて其名をあまねく輝く六
十余州に語り伝へたのしむ人の中に万能てたびく商の
わあひ入まますしいひなむ帷子袖め
らり愛敬志学の二門手蹟して商し将来に
に父三子と一代数千貫身を得て富門ある立身なり
多くを見る後の世に見せしめと代々三代を学んで
其身を治る此しるしとしてわかるべき者と

立身大福帳巻之三終